

# 下水道使用料体系の 見直しについて

市民説明会資料

滝川市建設部都市計画課

# 目次

使用料体系を見直す理由	.....	3
変更内容1	.....	4
変更内容2	.....	5
変更内容3	.....	6
基本水量の見直し①	.....	7
基本水量の見直し②	.....	8
基本水量の見直し③	.....	9
基本使用料と超過分の見直し	.....	10
使用料収入と損益の推計	.....	11
使用料収入と損益の推計(補てんなしの場合)	.....	12
使用料改定案(家事用・福祉用)	.....	13
使用料改定案(業務用)	.....	14
見直しの時期	.....	15

# 使用料体系を見直す理由

今回の見直しについて

## ポイント

下水道事業会計の収支を改善するための見直しではなく、使用実態に即した使用料体系にするための見直しです。

## 見直しの理由

- ・ H27国勢調査により、1人世帯が増加している。
- ・ 産業構造の変化により、水の需要も変化している。
- ・ 平成2年度に使用料を改定。以降、節水意識の向上・節水機器が普及。



今後、下水道管等の改修・更新工事への備えが必要になってくる。



## 下水道使用料体系の見直しへ

# 変更内容1

## ①基本水量の見直し

### ◆基本水量

現行

改定案

家事用

8m<sup>3</sup>



7m<sup>3</sup>

1m<sup>3</sup>減

業務用

20m<sup>3</sup>



15m<sup>3</sup>

5m<sup>3</sup>減

※地下水の利用の場合の認定基準も同様に変更

家事用: 汚水排出量の認定基準を 現行「1戸4人まで」 8m<sup>3</sup>から 7m<sup>3</sup>へ

業務用: 汚水排出量の認定基準を 現行「従業員10人まで」 20m<sup>3</sup>から 15m<sup>3</sup>へ

# 変更内容2

## ②基本使用料の見直し

### ◆基本使用料

	現行	改定案	
家事用	1,531.44円 (8m <sup>3</sup> まで)	<u>1,364.04円</u> (7m <sup>3</sup> まで)	167.40円の減
業務用	4,404.24円 (20m <sup>3</sup> まで)	<u>3,304.80円</u> (15m <sup>3</sup> まで)	1,099.44円の減

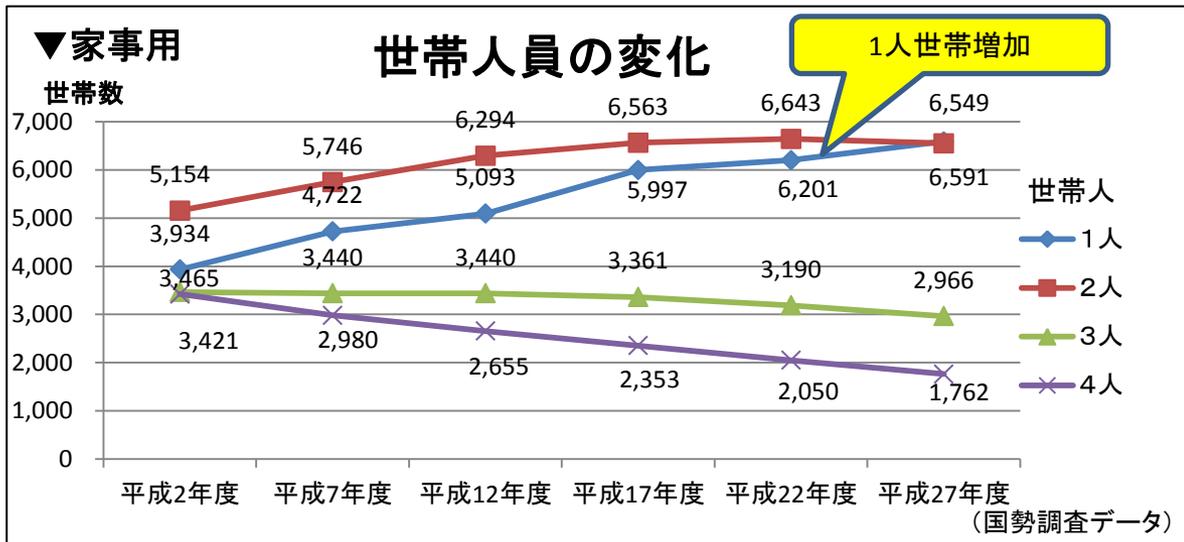
# 変更内容3

## ③超過分の見直し

### ◆超過使用料（1m<sup>3</sup>あたり）

	現行		改定案	
家事用	201.96円	➡	<u>207.36円</u>	5.4円の増
業務用	251.64円	➡	<u>262.44円</u>	10.8円の増

# 基本水量の見直し①



▼業務用

全産業の事業所数が2,923(平成3年度)から2,033(平成26年度)に890減少しています。  
 そのうち、製造業については、106から67へ39事業所減少。  
 サービス業については、847から1,009へ162事業所増加。全産業の約半数となっています。

平成2年度使用料改定に比べ、サービス業の事業所が増加するなど滝川市内の産業構造の変化に伴い下水道使用水量も変化しています。

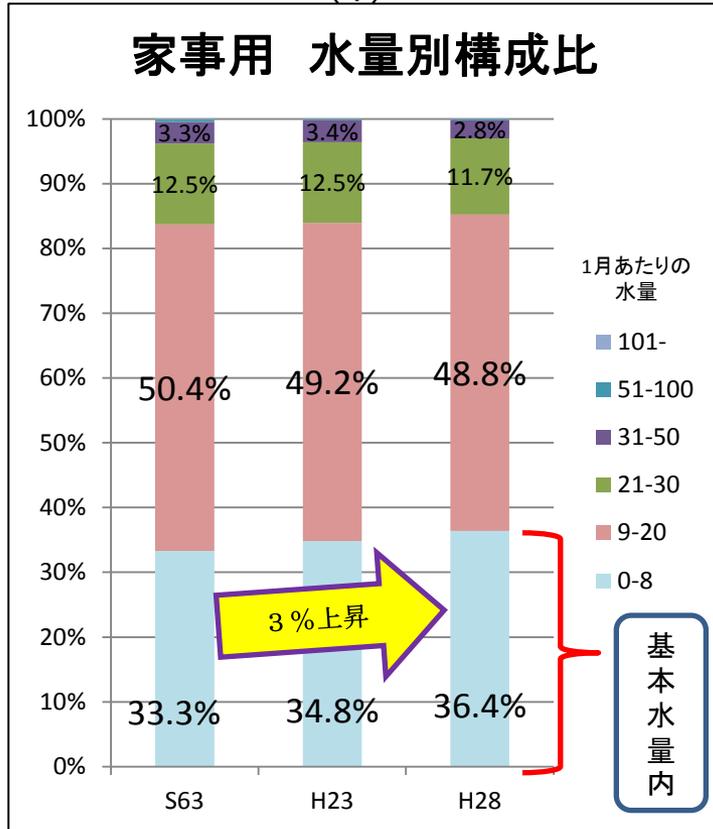
(経済センサスデータ)

洗濯機・水洗トイレなどの節水型機器等の普及  
 節水意識の高まり

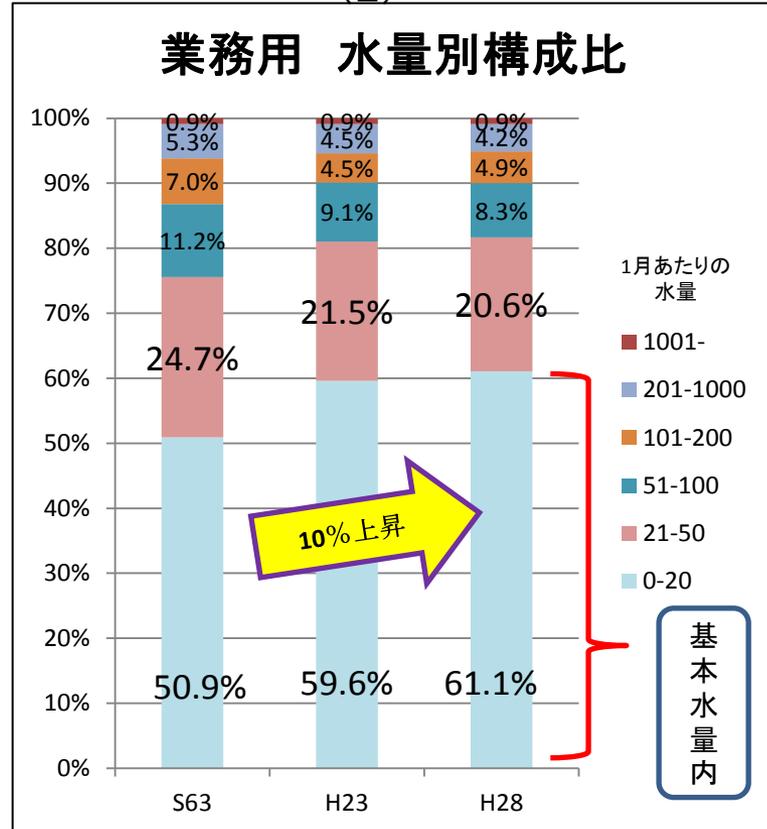
使用水量が減少傾向

# 基本水量の見直し②

(1)



(2)



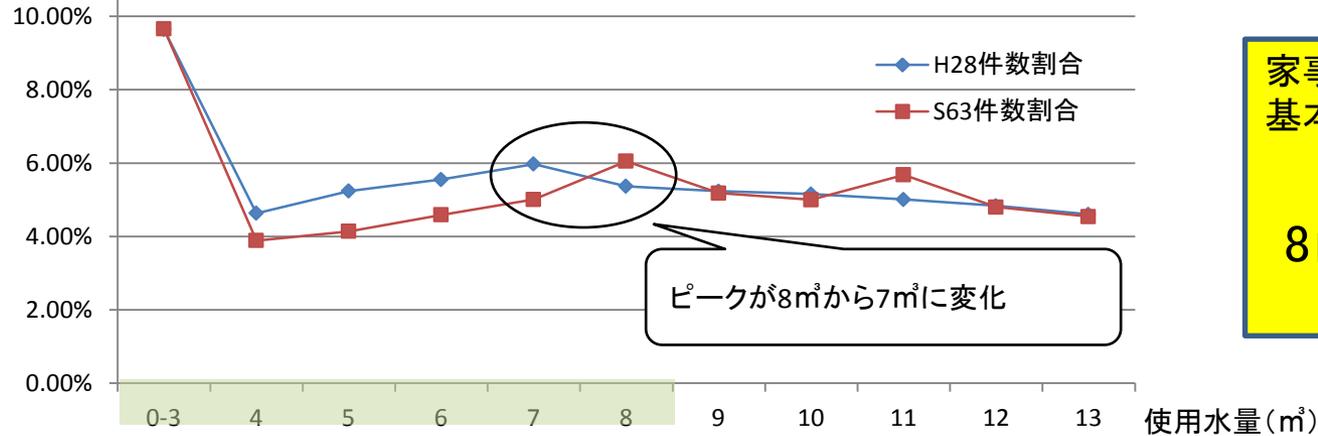
(滝川市下水道データ)



下水道使用料体系の見直し

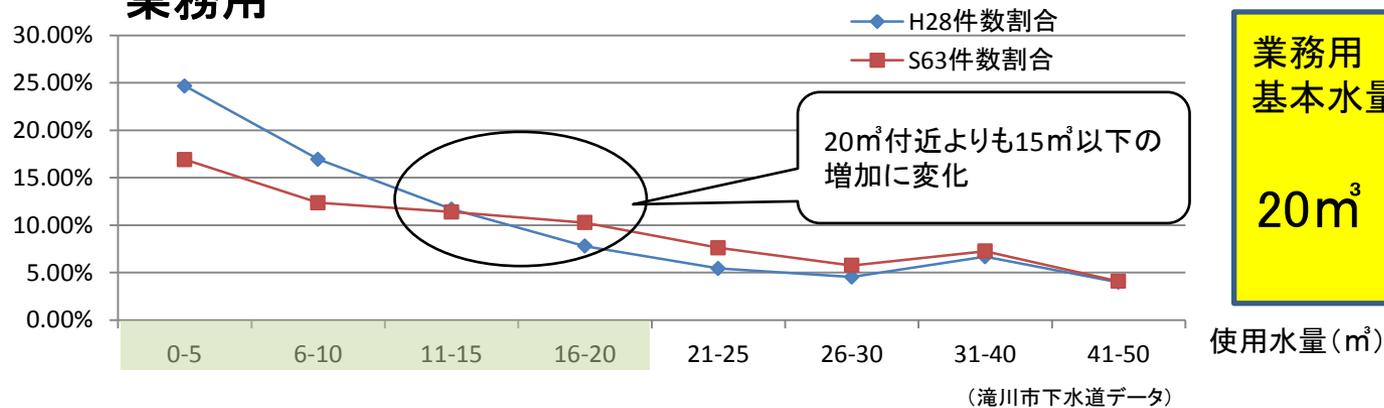
# 基本水量の見直し③

## 家事用



家事用  
基本水量(案)  
 $8\text{m}^3 \Rightarrow 7\text{m}^3$

## 業務用

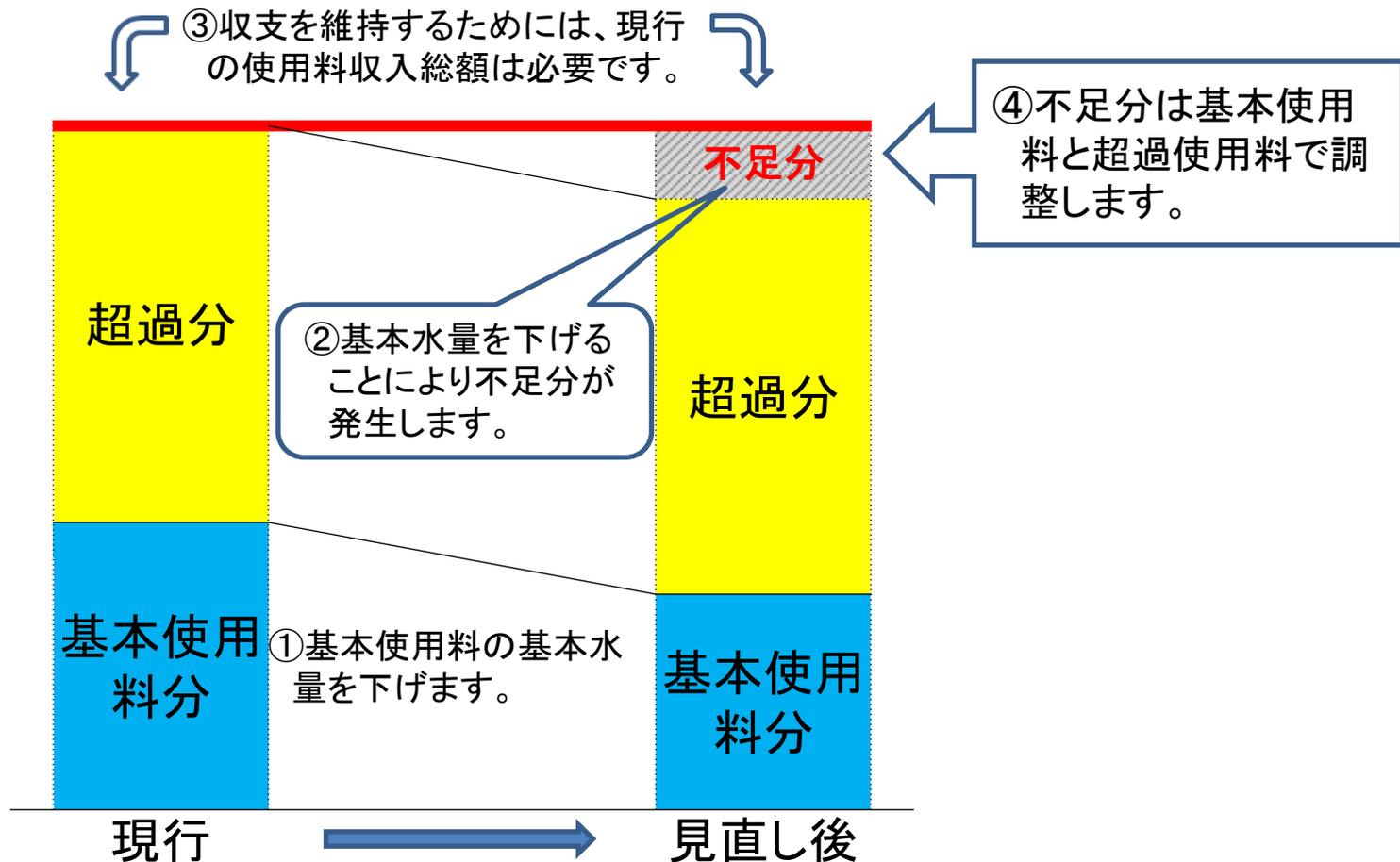


業務用  
基本水量(案)  
 $20\text{m}^3 \Rightarrow 15\text{m}^3$

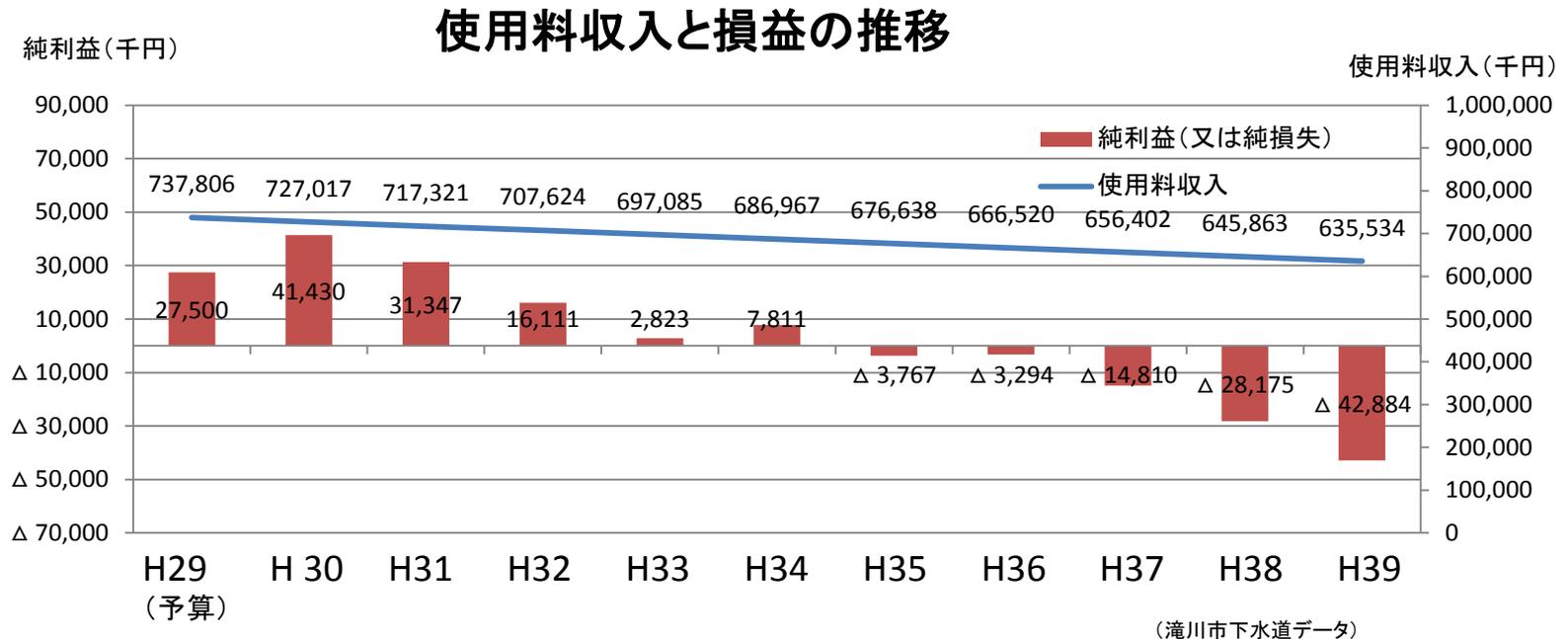
(滝川市下水道データ)

# 基本使用料と超過分の見直し

イメージ図



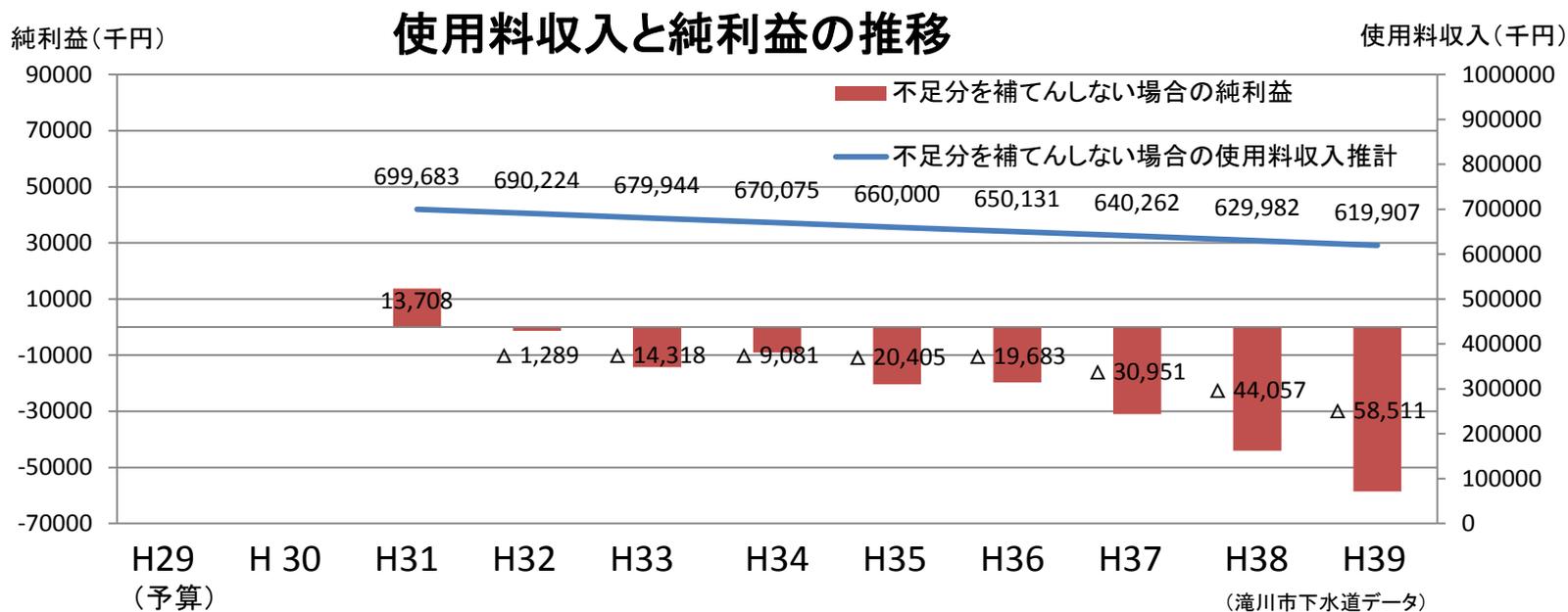
# 使用料収入と損益の推計



- ・ 滝川市下水道事業会計は、現状の推計では平成34年度まで黒字を維持できる見込みです。
- ・ 今後、施設（下水道等）老朽化に伴う改修等への備えが必要となるため、現行推計する使用料収入総額を確保することが必要です。

# 使用料収入と損益の推計(補てんなしの場合)

基本使用料を減額し不足した分を補てんしなければ・・・



- ・ 基本使用料を減額し不足した分を補てんしなければ、平成32年度に赤字を計上する見込み。
- ・ 今回の改定後、直ちに使用料改定をしなければならない。

# 使用料体系改定案(家事用・福祉用)

## ▼家事用(福祉用含む)

### ▼改定案 (カッコ書きは福祉用)

【単位:円 消費税8%込】

	現行
基本使用料	8 <sup>m</sup> まで 1,531.44 ( 934.20)
超過分	9 <sup>m</sup> ~ 201.96 ( 201.96)

改定後
7 <sup>m</sup> まで 1,364.04 ( 766.80)
8 <sup>m</sup> ~ 207.36 ( 207.36)

現行と比較すると  
基本使用料は 167.4円の減額  
超過分は 1<sup>m</sup>あたり5.4円の増額

月間使用水量	現行
0~7 <sup>m</sup>	1,531 ( 934)
8 <sup>m</sup>	1,531 ( 934)
15 <sup>m</sup>	2,945 ( 2,347)
20 <sup>m</sup>	3,954 ( 3,357)
30 <sup>m</sup>	5,974 ( 5,377)
50 <sup>m</sup>	10,013 ( 9,416)

改定後	現行差額	改定率
1,364 ( 766)	-167 ( -168)	-10.9% ( -18.0%)
1,571 ( 974)	40 ( 40)	2.6% ( 4.3%)
3,022 ( 2,425)	77 ( 78)	2.6% ( 3.3%)
4,059 ( 3,462)	105 ( 105)	2.7% ( 3.1%)
6,133 ( 5,536)	159 ( 159)	2.7% ( 3.0%)
10,280 ( 9,683)	267 ( 267)	2.7% ( 2.8%)

・負担が増える使用者は、極端な増とならない様、極力一定の増額率とします。  
平均 約2.6%

使用料は計算後、1円未満の端数を切り捨てた金額となります。

# 使用料体系改定案(業務用)

## ▼業務用

### ▼改定案

【単位:円 消費税8%込】

	現行
基本使用料	20m <sup>3</sup> まで 4,404.24
超過分	21m <sup>3</sup> ~ 251.64

改定後
15m <sup>3</sup> まで 3,304.80
16m <sup>3</sup> ~ 262.44

現行と比較すると  
基本使用料は 1,099.44円の減額  
超過分は 1m<sup>3</sup>あたり10.8円の増額

月間使用水量	現行
0~15m <sup>3</sup>	4,404
16m <sup>3</sup>	4,404
17m <sup>3</sup>	4,404
18m <sup>3</sup>	4,404
19m <sup>3</sup>	4,404
20m <sup>3</sup>	4,404
50m <sup>3</sup>	11,953
100m <sup>3</sup>	24,535
1000m <sup>3</sup>	251,011
3000m <sup>3</sup>	754,291

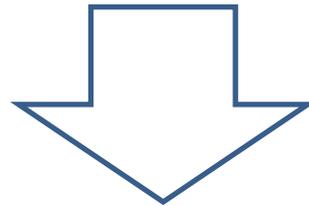
改定後	現行差額	改定率
3,304	-1,100	-25.0%
3,567	-837	-19.0%
3,829	-575	-13.1%
4,092	-312	-7.1%
4,354	-50	-1.1%
4,617	213	4.8%
12,490	537	4.5%
25,612	1,077	4.4%
261,808	10,797	4.3%
786,688	32,397	4.3%

・負担が増える使用者は、極端な増とならない様、極力一定の増額率とします。  
平均 約4.4%

使用料は計算後、1円未満の端数を切り捨てた金額となります。

# 見直しの時期

平成31年(2019年)10月を予定



今後は5年ごとに、下水道事業の経営を分析した上で、  
適正な使用料体系の検討を行っていきます。